



Topics / Insight

2015年3月の注目ディール： 任天堂とDeNAの業務・資本提携

2015年4月13日

本件の概要

3月17日、任天堂とディー・エヌ・エー（DeNA）はスマートデバイス向けゲームアプリの共同開発・運営等に関する業務・資本提携に合意した旨を発表しました。

両社は第三者割当による自己株式の処分を実施し、それぞれ約220億円の株式を相手方に割当てます。その結果、任天堂はDeNAの発行済み株式の10%、DeNAは任天堂の発行済み株式の1.24%を所有することになりました。

自己株式の処分価格

両社の自己株式の処分価格と市場株価を比較するとそれぞれ以下の通りとなります。

	任天堂	DeNA
処分価額	一株につき 12,497 円	一株につき 1,458 円
対前日終値	10.0% ディスカウント	2.7% プレミアム
対1ヶ月終値平均	3.1% ディスカウント	3.3% プレミアム
対3ヶ月終値平均	1.2% プレミアム	同額
対6ヶ月終値平均	1.5% プレミアム	1.8% プレミアム

上記よりわかる通り、任天堂株の処分価額は「第三社割当増資の取扱いに関する指針」で要請されている直前株価の0.9倍を満たす水準で、有利発行の問題を回避する最低金額に設定されています。一方で、DeNAの処分価格は前日終値から6カ月終値平均の中で最も高い価額でした。これは、任天堂が10%の持株比率で南場智子氏（13.10%）に次ぐ第2位の株主となるとした上で、同額の第三者割当の下、少しでもDeNAの持株比率を上げるといった意図を反映したものだと思われます。その結果、DeNAは任天堂の第10位の大株主となりました。

提携の狙い

業務提携は、①任天堂のIP（キャラクター等の知的財産）を活用したスマートデバイス向けゲームアプリの共同開発・運営、②多様なデバイスに対応した会員制サービスの共同開発の2つの領域で進められます。

これまで任天堂は、ハード・ソフト一体のビジネスモデルにこだわってきました。つ



Topics / Insight

まり、ニンテンドーDSやWii U等のゲーム専用機向けにスーパーマリオ、Wii Fit等の専用タイトルを供給するモデルです。そして、その中で育てられたキャラクターやソフト等の任天堂IPが同社の強みとされてきました。但し、最近ではスマートデバイスの普及もあり3期連続の営業赤字に落ち込み、ゲーム専用機ビジネスは苦戦を強いられています。一方、SNSサイトのモバゲーで急成長を果たしたDeNAも、その成長に陰りが見られます。競争の激しいモバイルゲーム事業において、ガンホーなどのモバイルアプリに押され気味であることが原因です。

こうした2社が現状を打破するために、お互いの強みを活用した新たなビジネスプラットフォームを構築するというのが今回の提携ということが出来ます。

提携に対する評価

本件業務・資本提携の発表後、市場における両社の株価は一気に上昇し、任天堂は発表直前に比べて3割~4割程度高い株価を維持しています。DeNAに至っては、発表直後に約5割上昇した上にその後も上昇を続け、4月に入ってから発表直前に比べて7割~8割程度高い株価となっています。今のところ、市場からは良い評価を受けていると言えるでしょう。

新たなプラットフォームとなる会員サービスは2015年秋に開始予定であり、また、IPを活用した新作ゲームタイトルについては、「今年中には何らかのアウトプットを一緒に出していく」とのことでした。

ゲーム業界の老舗企業である任天堂から見ると、DeNAは組織風土も違うかなり若い企業に見えると思います。その両社の組み合わせで、上記のようなスピード感をどこまで維持してアウトプットを出すことが出来るか、そして、協業して開発するビジネスプラットフォームの完成度をどこまで高められるかが、本提携の成否を決めることになると思われます。

<問い合わせ先>

ベネディ・コンサルティング株式会社

Mail: info@benediconsulting.jp

Web site: <http://benediconsulting.jp>